

事業所名	グループホーム 西大寺あゆみホーム (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成 20 年 2月28日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 理学療法士、ガイドヘルパー講師 資格・経験 理学療法士、介護支援専門員 B:現職 社会福祉法人生活指導員 資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、ホームヘルパー2級、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
<ul style="list-style-type: none"> ・はだか祭りでは知られる、西大寺観音院に近い静かな住宅地にホームはある。周囲の住宅とも調和した外観で、駐車場も広い。ホームの前には『認知症の相談をたまりません』と書かれた看板があり、近所や通りがかりの人が気軽に立ち寄り、見学や相談をしている。近くには、病院やスーパーマーケット、少し離れてJR西大寺駅や警察署などがあり、生活に便利な場所である。 ・ホームは積極的に地域との交流の機会を設け、地域に受け入れられている。開設当初から町内会に入会し、町内の行事にも参加している。運営推進会議も、2ヶ月毎に開催し、毎回地域の方の参加がある。ホーム主催の夏祭りの時には近隣にチラシを配ったり、敬老会やクリスマス会などにも招待している。近くの保育園からは、毎年園児達がホームの畑に芋植えに訪れ、入居者は園児の運動会を見に行っている。民生委員の誘いで地域の方と一緒に公園の清掃に参加するなど、理想的な地域との関係が出来ている。 ・『いつまでも笑顔でその人らしく幸せに』の理念に沿い、入居者が今まで通りの生活を続けられる為に決して無理強いすることのないよう心配りをしている。『24時間アセスメントシート』を用い、入居者一人ひとりの生活パターンを大切にし、その人らしく歩んでいけるよう支援している。また、問題発生時には、必ず直ぐにミーティングを持ち、対処している。 ・入居者が季節を感じ取れるようにとの思いで、暮れの餅つきや初詣、花見、夏祭りなど様々な行事に力を入れている。また、イベント担当職員の綿密な計画のもと、一泊旅行を毎年続けており、多くの家族が参加して、入居者・職員との親睦が図れている。
特に改善の余地があると思われる点(記述)
・特に改善の余地があると思われる点はない。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者と全職員は、年の初めに会合を開き、理念の意義の理解を深め、年間目標を立てて理念の実現を目指している。 ・地域に密着したホームを目指し、地域と共存していくホームであるように様々な配慮をしている。地域や家族との交流を深めると共に、入居者一人ひとりの意向や生活パターンを大切に考え、その人らしく暮らせるよう、細心の注意を払って支援している。 ・管理者は看護職でもあり、健康管理と入居者の少しの変化も見逃さないよう職員指導を行い、入居者の心身機能の低下を防ぐための取り組みを行っている。 ・職員がやり甲斐を持って働ける職場として、パソコンや折り紙など職員の特技を活かした役割分担をしている。イベントも担当制にして管理者と相談しながら企画を実行している。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・朝は、必ず入居者一人ひとりと挨拶を交わして入居者の状況を観察し、一日の雰囲気作りをしている。また、職員は絶えず入居者の顔を見ながら動き、入居者が要望を出しやすいように配慮している。 ・入居者一人ひとりの生活パターンを大切に、それぞれに役割を持ってもらい、その人らしく活動できるように支援している。また、決して無理強いすることのないよう心配りをしている。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりの個性や能力・経験を生活場面での役割に活かしている。得意なことや好きなこと、その場ですぐできること等を職員と一緒にしてもらっている。また、食後に入居者が自主的に下膳やランチョンマットを片付ける場面では、感謝の言葉を掛けながら温かく見守っている。 ・「訪室の際にはノックをして必ず許可を得てから入る、トイレ誘導は静かにさりげなく声掛けを行い他の入居者に分らないように気をつける、丁寧な言葉使いで話す」など入居者の尊厳に配慮している。 ・個人の情報を他に漏らす事のないよう、書類は事務所内で鍵を掛けて保管している。ホームを訪れるボランティアにも守秘義務について厳守してもらい、入居者のプライバシーの保護に努めている。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇についての研修は、年に数回外部から講師を招き、系列のデイサービスと合同で行っている。また、ホーム内研修は、職員ミーティングでテーマを相談し合って決め、代表者も参加して実施している。 ・昨年指摘のあった行事の反省書や事故報告書については、書式を工夫して分かりやすく改善されている。また、問題は発生した時には、直ぐにミーティングを開いて対策を検討し、次へと繋げている。 ・サービスの質の向上には職員の健康管理も大切と考え、健康診断や予防接種を奨励している。 		